

学科名	全学科						
科目名	論理的表現法 I						
科目区分	教養教育科目	単位数	1単位	開講時期	前期		
必修・選択の別	必修						
担当者	青木志穂子						
授業の到達目標 (シラバスから)	<p>学修にあたり、以下の目標を設定する。</p> <p>1.読む(日本語能力試験N2レベル)</p> <p>(1)日常生活に関するテーマをもったひとまとまりの文章を理解することができる。</p> <p>(2)日常生活に関するテーマをもった文章に用いられることばや文型を理解することができる。</p> <p>(3)日常生活に関するテーマをもったひとまとまりの文章の内容を簡潔にまとめて、周りに伝えることができる。</p> <p>2.書く(日本語能力試験N2レベル)</p> <p>(1)日常生活に関するテーマをもったひとまとまりの文章(200字程度)を学習した言葉や文型を用いて書くことができる。</p> <p>(2)自分の経験をまとまりのある文章で述べたり、身近な社会的話題に対する自分の意見を賛成/反対の立場をはっきりさせながら200字程度で述べることができる。</p> <p>この科目の学修は「近畿大学の教養教育の目的と目標」の3の達成に関与している。</p>						
日程と内容	<p>第1回 ガイダンス 第21課「なんともったいないことか」前半</p> <p>第2回 第21課「なんともったいないことか」後半</p> <p>第3回 第22課「コースを走る上で、ポイントになるのはどんなところですか」前半</p> <p>第4回 第22課「コースを走る上で、ポイントになるのはどんなところですか」後半</p> <p>第5回 第23課「日本食が恋しくてならなかった」前半</p> <p>第6回 第23課「日本食が恋しくてならなかった」後半</p> <p>第7回 第24課「収入の面からいうと、OLをしていたときよりも苦しいです」前半</p> <p>第8回 第24課「収入の面からいうと、OLをしていたときよりも苦しいです」後半</p> <p>第9回 第25課「やめようか続けようか決めかねていました」前半</p> <p>第10回 第25課「やめようか続けようか決めかねていました」後半</p> <p>第11回 第26課「目の不自由な人や盲導犬に関する法律が改正されました」前半</p> <p>第12回 第26課「目の不自由な人や盲導犬に関する法律が改正されました」後半</p> <p>第13回 第27課「どこかへ行ったきり、帰ってこなくなりました」前半</p> <p>第14回 第27課「どこかへ行ったきり、帰ってこなくなりました」後半</p> <p>第15回 ふりかえりとまとめ</p> <p>論理的表現法 I 学期末試験</p>						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	50%					
	演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	日本語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のうち、特に読む、書くを中心としつつ、聞く話す技能尾を向上させることができた。30行前後の文章を効率よく読解し、そこに出てくる文型を使った短文作りが短時間でできるようになった。さらにその文型を含んだ作文の課題も、徐々に量的に膨らませることができるようになった。最終的に文法項目については日本後能力試験N2レベルに到達した。						
反省点	教壇を前にして2列に並んで授業を行ったが、小人数授業であることを活かし、ラウンド方式の授業を行ってもよかったのではないと思う。自由に発言させ、議論を発展させていくような対話式の方が、自律的学習へとつなげることができたとも考えられる。						
来年度の計画	日常的に書くことに慣れさせるために、作文の宿題を増やしたい。添削を繰り返すことで、文型の使い方を体得し、専門科目のレポートに対応できる日本語能力の向上を図ることを目指したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	家での学習時間の格差が大きいことがわかった。留学生の場合、一人で予習復習することが日本語能力の面からだけでなく、生活習慣の面から困難な場合もある。よりきめ細やかな指導を心掛けたい。						
履修登録者数	4名	定期試験 受験者数	4名	合格者数	4名	合格率	100%